

氏 名	李 海 涼 リ ハエ ジョン
学位の種類	農 学 博 士
学位記番号	論 農 博 第 908 号
学位授与の日付	昭 和 56 年 3 月 23 日
学位授与の要件	学 位 規 則 第 5 条 第 2 項 該 当
学位論文題目	韓牛の市場構造と価格とに関する研究

論文調査委員 (主 査) 教 授 菊 地 泰 次 教 授 中 嶋 千 尋 教 授 頼 平

論 文 内 容 の 要 旨

本論文は、韓国における牛の流通の実態を明らかにし、その合理化に資することを目的として、牛の飼育適地である江原道を対象に、長期にわたる克明な実態調査を通して牛の市場構造と価格とについて分析・研究し、さらに日本における和牛流通との比較検討を試みたものである。その内容は次の三つの部分からなる。

第一は韓牛の市場構造に関する分析であり、そこではまず市場の数、規模および分布状態を明らかにし、牛の移動系列と市場の段階別区分を行い、それぞれの段階市場の特色と機能とを明らかにしている。とくに各段階別に市場の位置、市日、取引構造、輸送手段等について克明な調査を行って段階市場間の比較を試み、牛商についても、その種類や段階市場別の機能に関して詳細な分析を行っている。

第二は韓牛の価格形成に関する分析であり、そこでは牛の年令、体重、性別や取引人の種類、取引時刻、さらに季節や年次によって、牛の価格がどのように異なるかを詳細に分析してそれぞれの相関関係を考察している。また市場段階間ならびに市場規模別の価格差とその要因について考察するとともに、それらの価格差が年次別にどのように推移するかについても究明している。

第三は牛の流通構造に関する日韓比較であり、そこでは主として日本の戦前と比較した共通点11と、主として日本の現状と比較した相違点26とをあげて、それぞれの要因についても考察している。そして日韓の相違点の多くが、経済の発展段階の差異に基づくものであること、韓牛の飼養状況や流通形態の現状が1955年頃の和牛のそれによく類似していること、それだけに、その後の日本における牛の流通に関する変化の過程が、韓国における今後の牛の流通に関する改善・合理化に重要な指針を与えるものとなろうことを結論としている。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

近年、韓国においては、所得水準の上昇により牛肉に対する需要が増加し、他方、農作業の機械化が進むにつれて、従来主として農耕に用いられてきた韓牛が、次第に肉用としての重要性を高めてきている。

しかしながら韓国では、これらの実態を表わす統計資料に乏しく、韓牛の市場や価格に関する実態分析もまだ殆んどみられない。

本論文は、韓国における韓牛の市場構造と価格とを分析してそれらの実態を明らかにするとともに、日本における和牛流通との比較検討を通して韓牛流通の合理化をはかろうとしたものである。その主な成果をあげれば次のようである。

1. 韓牛の市場を蒐集市場、集荷市場、集結市場の3段階に区分して、それらの市場を経由する牛の移動系列を明らかにするとともに、各市場の取引実態や輸送手段を段階別に比較して、それぞれのもつ特色を明らかにした。また牛商についても、蒐集商、移動商、搬出商等について段階市場別の機能を究明した。

2. 年令、性別、体重によって韓牛の kg 当たり単価がどう異なるか、季節、年次によってどのような価格変動がみられるか、市場段階間ならびに市場規模別にどのような価格差が生ずるかを克明に分析し、近年、市場段階間価格差が次第に縮小してきた原因を究明している。

3. 牛の流通構造について日韓の比較を行うことによって、韓牛流通の現状が戦前の和牛流通とよく似ており、現在の和牛流通と大きく異なる点を指摘し、それぞれの要因を明らかにしている。そしてその相違点の多くが、経済の発展段階の差異に基づくものであり、近年の韓牛流通の変化が、日本の1955年以降の状況ときわめてよく類似していることを論証している。

以上のように本論文は、韓牛の市場構造と価格とを分析し、とくに日韓の比較を通して新しい知見を加えたもので、畜産流通の研究ならびに韓国畜産の発展に寄与するところが大きい。

よって、本論文は農学博士の学位論文として価値あるものと認める。